

## 大和遠州流との出会い

---

めいじ 明治26年(1893)22才の時、<sup>さの</sup>佐野の旧家<sup>きゅうかた</sup>蓼沼<sup>たぬま</sup>勘七<sup>かんしち</sup>と<sup>けっこん</sup>結婚し、1男3女に<sup>めぐ</sup>恵まれました。

<sup>けっこん</sup>結婚した時、<sup>たぬまけ</sup>蓼沼家には3人の男の子がいました。

この子たちを教育するためには、<sup>けんどう</sup>剣道を習わせるのが良<sup>よ</sup>いと<sup>かとういっしょう</sup>考え、<sup>けんどうしちだん</sup>加藤一照という<sup>けんどう</sup>剣道七段の先生に子どもたち<sup>けいこ</sup>の<sup>たの</sup>稽古を頼みました。

するとある日、<sup>けいこ</sup>稽古の後<sup>とつぜん</sup>突然、<sup>かとう</sup>加藤先生が「<sup>おく</sup>奥さんお茶をやっていましたか。」と<sup>たず</sup>尋ねてきました。「<sup>まず</sup>貧しかったから、お茶はやっておりません。」と答えると「お茶をやりませんか。」と言われ、<sup>きょうみ</sup>興味もありましたのでやってみることとなったのです。

しかし、この時は加藤先生が大和遠州流茶道家元第 17

代静月菴だとは夢にも思いませんでした。

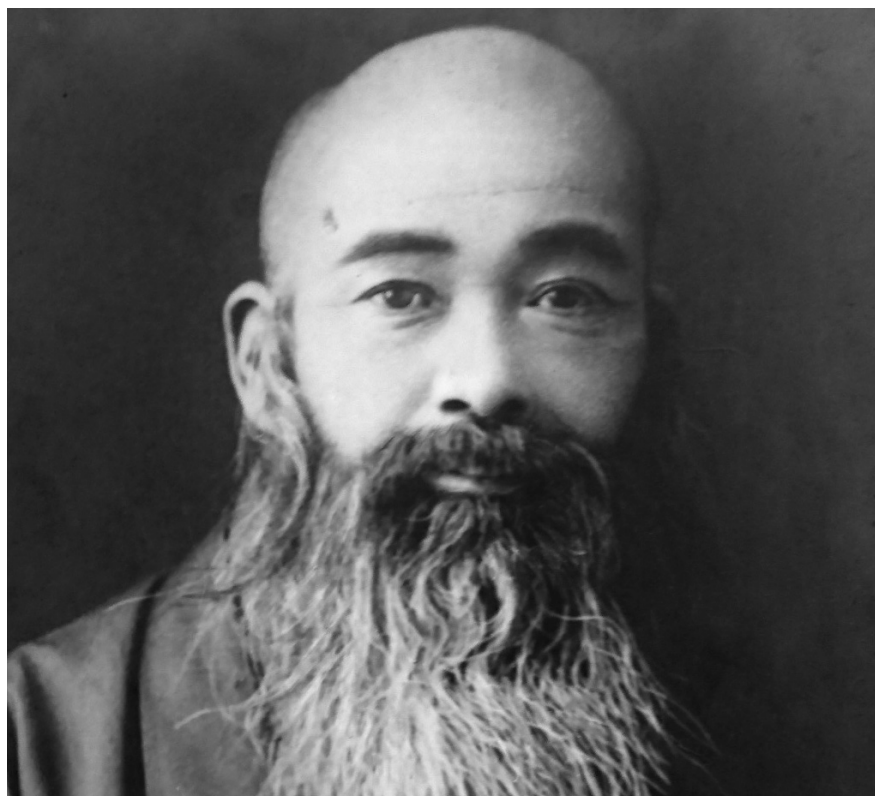
言われるままに、茶道の指導を受け、加藤先生の期待に

応えていきました。

この頃は、夫勘七の事業も順調で子どもたちに囲まれ、

子育てをするとともに、好きな絵を描き充実した人生を

送っていました。



第17代静月菴 加藤一照